

平成 30 年 5 月 9 日

保健福祉局健康先進都市推進担当

福岡地域戦略推進協議会

市政記者各位

「福岡ヘルス・ラボ」実証事業 参加事業者を募集します

福岡市と福岡地域戦略推進協議会は、人生 100 年時代の“健寿社会”の実現に向け産学官民オール福岡で取り組む「福岡 100」プロジェクトの一つとして、平成 29 年度から実施している「福岡ヘルス・ラボ」における平成 30 年度の効果認証型実証事業の提案を募集します。

1. 募集事業

「健康日本 21 福岡市計画」において生活習慣の改善を目指している、＜栄養・食生活＞＜運動＞＜休養＞＜飲酒＞＜喫煙＞＜歯・口腔＞のいずれかの分野において、市民の意識・行動変容を目指すプロダクトの機能・効果等を福岡市または福岡市を含む複数の自治体圏域で実証する事業であること。ただし、医薬品、医療機器及び再生医療等の製品並びに体内摂取する食品や侵襲^(※1)性の高いプロダクトに関する実証事業は除く。

(※1) 侵襲：体に有害となる可能性のある行為とその程度のことを指す。福岡ヘルス・ラボにおける侵襲とは、身体への装着や運動・活動への参加等によって、参加する市民の身体又は精神に傷害や負担が生じること。

2. 応募資格

福岡市内において、市民参加型の実証事業を行う事業者(法人・団体及び個人)、または複数の事業者による共同事業体

3. スケジュール

- 募集期間：平成 30 年 5 月 10 日（木）～8 月 10 日（金）
- 事業選定：平成 30 年 10 月予定

4. 支援内容

- 市民モニター募集及び地域や施設とのマッチングを支援します。
- 健康維持・増進や介護予防などに寄与するものと認める場合は、福岡ヘルス・ラボによる認証を行います。
- ホームページでの掲載など広報支援を行います。

5. 応募方法

5 月 10 日（木）に福岡ヘルスラボ HP (<https://f-healthlab.jp/>) へ掲載します。

お問い合わせ先

■ 応募手続きに関すること

福岡地域戦略推進協議会（Fukuoka D.C.） URL : www.fukuoka-dc.jpn.com/
担当：稲葉・内保 TEL:092-733-5682 MAIL:info@fukuoka-dc.jpn.com

■ 「福岡ヘルス・ラボ」及び「福岡 100」プロジェクトに関すること

保健福祉局健康先進都市推進担当

担当：木本・吉田 TEL:092-711-4543（内線 2056） FAX:092-733-5587

(掲載は五十音順)

(1) イオン九州株式会社・学校法人福岡大学

「イオン健康ポイント in 香椎浜」

イオンモール内をタッチラリーしながら健康ポイントを貯めることができるウォーキングラリーを実施。福岡大学の協力のもと、平成 29 年 11 月 4 日・平成 30 年 3 月 3 日に、希望者を対象に上下肢筋力・体組成・血圧など 13 種類の測定を行い、健康ポイントの獲得が運動継続の動機づけとなるかや、健康にどのような効果を与えるかなどを検証。

(2) 株式会社九州第一興商

「生活総合改善機器・DK エルダーシステムを使った 65 歳からの健康づくり教室」

通信カラオケ機器「DAM」を活用した、介護予防・健康増進コンテンツ配信システム「DK エルダーシステム」のプログラムを使用して、65 歳以上の方を対象とする健康づくり教室を実施。移動能力・嚥下機能・社会参加などの変化を測定し、効果を検証。

(3) 正興 IT ソリューション株式会社・株式会社アステム

「リハビリウム起立の森」

立ち座りにアニメーションが連動することで、楽しく起立運動の継続を促すことができるリハビリゲーム「起立の森」を活用して、55～84 歳の方を対象とする虚弱・筋肉量の低下予防プログラムを実施。立つ・歩く・座るなど、日常生活に必要な身体の移動に関わる機能等の変化を測定し、効果を検証。

(4) セイコーメディカルブレン株式会社

「栄養ケアサポート薬局事業」

65 歳以上の方を対象に、かかりつけ薬局による ICT を活用した栄養ケアサポート（低栄養/フレイル予防）を実施。参加者は、薬学的管理指導による定期的な栄養状態チェックを受け、低栄養の早期抽出（気付き）から、低栄養の要因を医師と協働で探求し、予防/改善に向けた栄養ケアプログラムを実践いただくことで、低栄養予防やフレイル予防などの効果を検証。

(5) 社会医療法人原土井病院・学校法人原学園

「アクティブシニアライフ プログラム」

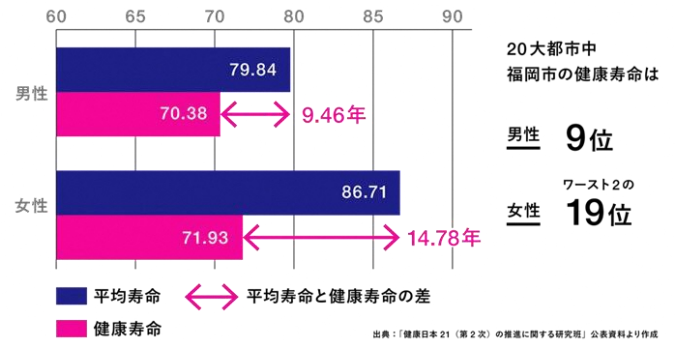
65 歳以上の方、原土井病院グループ職員を対象に、原土井病院の医師・栄養管理士・健康運動指導士が運動面などをサポートすることにより、生活習慣病の予防・改善や身体機能の維持向上等の効果を測定し検証。

福岡 100

1. 『福岡 100』について

(1) プロジェクトの背景

- 人口構造の変化への対応（特に 75 歳以上が急増）
- 65 歳以上の一人暮らし世帯の増加への対応
- 増加し続ける要介護高齢者・認知症高齢者への対応
- 健康寿命の延伸



(2) 『福岡 100』とは

- 人生 100 年時代の到来を見据えて、一人ひとりが心身ともに健康で“自分らしく”生きていける持続可能な社会システム，すなわち「個人」と「社会」双方が幸せになれる“健寿社会[※]”の実現に向けたプロジェクト

※「健寿社会」とは、必要な医療やサービスが受けられ、健康で自分らしく生きていける「個人の幸せ」と、効率的な制度や仕組みが構築され、保険料や税金の負担も抑えることができる「社会の幸せ」を両立できる持続可能な社会



- 健康・医療・介護だけでなく住まいや地域づくり，働き方なども含めて，広い意味での“まちづくり”に 産学官民“オール福岡[※]”で 2025 年までに 100 のアクションを推進

※オール福岡での取り組みでの視点
・市民や企業，大学など幅広いプレイヤーの参画を得ながら，その発想と手法を取り入れる
・市民がこれから起こる問題を「自分ごと」化し，解決に向けて動き出すきっかけをつくる

2. これまでの取り組み

H28年 3月	福岡市で開催された厚生労働省主催の「保健医療 2035 シンポジウム」において、「保健医療 2035 推進シティ」に第 1 号として取り組むことを表明
H29年 6月	超高齢社会への対応として「福岡市保健福祉総合計画」を策定 ・「“配る福祉”から“支える福祉”へ」「“支えられる側”から“支える側”へ」という政策転換 ・持続可能な制度や仕組みへの行政施策の再構築
3月	「福岡市健康先進都市戦略」を策定
7月 14日	戦略に基づき“オール福岡”で推進していく『福岡 100』について，市長ほか産学官民の代表者による共同記者会見を開催

<健康先進都市戦略 7つの柱>

1. すべての市民がケアに参加するまち
2. 制度やサービスの垣根を超えるまち
3. デジタル時代の医療サービスが実現されるまち
4. 誰もが楽しみながら健康になれるまち
5. 多世代がつながり合い活躍するまち
6. ケア・テック・ベンチャーの拠点となるまち
7. ケアの国際化を進めるまち



福岡ヘルス・ラボ



1. 福岡ヘルス・ラボとは

「福岡ヘルス・ラボ」は『福岡 100』プロジェクトの一つとして 2017 年に福岡市と福岡地域戦略推進協議会により創設されました。

リビング・ラボ（※）の手法を使って「市民や企業，大学などが一体となって社会課題の解決に役立つサービスを生み出す」。これが「福岡ヘルス・ラボ」の取り組みです。100 歳まで生きるのが当たり前になるこれからの時代において、近年、健康寿命の延伸が注目されるようになりました。そこで市民一人ひとりが心身ともに健康で“自分らしく”生活できる社会の実現を目指して活動しています。

※リビングラボとは

2000 年代から北欧などで発展した市民参加型の共創活動です。

生活者（課題の当事者）と企業や自治体，大学・研究機関などの関係者が関わり合い“共創”することで，より満足度の高いサービスや製品を生み出していくという手法です。リビングラボにおいて生活者は①サービスや製品を共創するパートナーおよび②サービスのモニターという 2 つの重要な役割を果たします。

2. 「福岡ヘルス・ラボ」の 4 つの特徴

(1) 開発の初期段階から市民が参加して，ニーズや課題を共有しながらアイデアの磨き上げます。また，サービス改善のための意見交換を行いながら，試作品の実用化を検証していきます。企業や大学と市民が共働しながらサービスの開発に取り組みます。

(2) 新しく開発されたサービスが，健康づくりや介護予防にどのような効果をもたらすのか，市民の協力を得ながら確認していきます。確認された結果をもとにサービス改善と実用化を進めていきます。

(3) 実証事業の結果，市民の健康づくりや介護予防，健康寿命の延伸に効果をもたらすことが明らかになった場合「福岡ヘルス・ラボ」がその効果を認証し，サービスの周知に協力します。

(4) さまざまなアイデアを持つ企業や顧客基盤・経営資源を持つ企業と，知的財産を持つ大学をマッチングすることで，新たなサービスの開発とビジネス化を促進します。

